

池田 良穂 (大阪府立大学の名誉教授・客員教授)の

新クルーズ学

約2年半にわたる新型コロナウイルスの世界的流行によって打撃を受けた内外の観光業がようやく復活の時を迎えています。

2019年時点で全世界で年間3千万人が楽しんでいたクルーズもこの春から世界各地で復活して順調に乗客を集めており、来年にはコロナ禍前の3千万人規模にまで回復して次なる成長過程にのるとの希望的な見方が大勢を占めつつあります。

20年からのコロナ禍の3年間に新造されたクルーズ客船は57隻で、そのうち約5万室、ベツ

ド数で約11万床となりま

す。この間、ゲンチン香の倒産はありましたが、カーニバル、ロイヤル・カリビアン、ノルウェー・クルーズ、エーリクソン・クルーズ、MSCの4大グループは健在で、カーニバルでは10隻、ロイヤル・カリビアン7隻、MSCは4隻の新造船をそれぞれの船隊に加えました。

クルーズ客船の多くは国際航路の航海を行いますので、コロナ禍で国境が閉ざされた結果、大半がアイドリング状態となり、各地の港や沖合で長い停船を強いられました。北米、欧州の順に国際クルーズが再開されました。ただし東アジアで



アジア水域用に建造された世界最大の「ワンダー・オブ・ザ・シーズ」はアメリカ、欧州でクルーズをしながらアジアでのクルーズ再開を待っている

た船もアメリカや欧州でクルーズに従事しながらアジア水域でのクルーズ再開を待っています。19年にはクルーズ人口が35万人に達した日本においては4隻の日本籍船は国内クルーズの再開を待っています。意外なことに同船の評判が大きくアップしていることが分かったそうです。悪いニュースではありませんが、連日、報道されたことで同船の認知度は一気に上がり、一方、風評を心配された「換気が悪い」といった情報が間違いないであつたことが広く知られるようになったことに原因があり

はゼロコロナ政策をとる中国をはじめとして、日でもまだ国際クルーズが再開されていません。しかしクルーズ船の強

みは世界中どこにでも移動できることで、クルーズが再開された水域に移り稼働を始めています。アジア水域用に新造され

コロナ禍から復興するクルーズ

クルーズ客船は57隻で、そのうち約5万室、ベツ